

【活動報告/資料】

大学ICT推進協議会2012年度年次大会参加報告

情報基盤センター

1. 年次大会の概要

開催日 : 2012年12月17日(月)～19日(水)

会場 : 神戸国際会議場(神戸市中央区)

参加対象者: 高等教育機関及び学術研究機関において、情報通信技術を利用した教育、研究、経営等に携わる教職員。高等教育機関向け ICT 活用製品を提供する企業。

大会規模 : 企画セッション 21

企業セミナー 16

一般講演 75

ポスターセッション 23

企業展示 38

2. 神戸大学からの参加者

檜村 志郎 (情報基盤センター長・教授)

鳩野 逸生 (情報基盤副センター長・ネットワーク基盤研究部門・教授)

尾川 正美 (特命教授)

熊本 悦子 (教育支援基盤研究部門・教授)

荻野 哲男 (教育支援基盤研究部門・助教)

田村 直之 (学術情報処理研究部門・教授)

番原 睦則 (学術情報処理研究部門・准教授)

宋 剛秀 (学術情報処理研究部門・助教)

伴 好弘 (ネットワーク基盤研究部門・准教授)

佐々木 博史 (ネットワーク基盤研究部門・助教)

今井 昭史 (事務長)

有働 雄二 (事務長補佐)

林 文武 (専門職員)

松本 亘 (事務システムグループ係長)

橋本 欣也 (事務システムグループ係主任)

糸井 和臣 (事務システムグループ係主任)

綿貫 賢太 (事務システムグループ係員)

藪本 義人 (センターシステム係長)

北内 一行 (センターシステム係主任)

田坂 和博 (センターシステム係員)

池田 まさ子 (センターシステム係事務補佐員)

3. 参加報告

○一般講演

12月17日（月）

熊本 悦子教授、萩野 哲男助教（教育支援基盤研究部門）

タイトル:全学共通教育科目「情報基礎」のための e-Learning システム

本学では2004年度より大学入学時に新入学生全員に対して、大学生に必要な情報リテラシーの習得を目的とし、必修の共通教育科目「情報基礎」を実施してきた。約2,700人の新入生を二十数クラスに分け、複数の担当教員で授業を実施している。クラス間における授業の質をできるだけ均等にし、公平な評価がなされるように開発・整備した、情報基礎専用の e-Learning システムについて報告した。

12月17日（月）

尾川 正美（特命教授）

タイトル:神戸大学におけるIT-BCMの取組み

神戸大学では、2010年に大学基幹業務の緊急時対応計画の作成と事業継続管理の確立に着手した。また、2011年にIT-BCP策定プロジェクト(Information Technology - Business Continuity Plan)を設置し、コンサルタントを雇って緊急時対応計画を策定し改善勧告などを整理した。さらに、2012年から新たにIT-BCMチーム(同上 Business Continuity Management)として再出発し、各種対策の企画・実施(現状の問題点の改善提案、関連システムの整備など)、緊急時対応訓練および緊急時対応計画の見直しなどに順次取り組んでいる。ここでは、それらの取組みの概要について紹介した。

○ポスターセッション

12月18日（火）

鳩野 逸生（情報基盤副センター長・ネットワーク基盤研究部門・教授）

タイトル:神戸大学における大学情報システムの開発と運用

本学では、2005年から運用している神戸大学情報データベース(KUID)を開発し、運用してきている。KUIDは、神戸大学における評価事業など様々なことに利用されている。本稿では、KUIDの構築目的、構成、利用状況および課題について述べた。

○その他 (Pick up)

鳩野 逸生（情報基盤副センター長・ネットワーク基盤研究部門・教授）

I4: 情報基盤とその運用 (1)

VDI環境の可能性に関する共同実験・検証（日本大学）

（雑感）

・上記発表では、日本大学におけるVDI (Virtual Desktop Infrastructure)導入における性能評価、デバイスのコンパチビリティなど導入時に発生した様々な問題に関する発表であり興味深い。

・上記の点も含め、情報基盤の安定的な運用には非技術的な問題も含めた様々な試行錯誤が必要であり、もっと幅広い分野での交流・情報交換が必要であると感じた。

林 文武（専門職員）

12月18日（火）13:00から17:35に開催された全体会に参加し、理化学研究所の米澤明憲氏及びクリエイティブコモンズジャパンの渡辺智暁氏による基調講演を聞いた。

また、企業・大学等の展示ブースで情報収集を行った。

松本 亘（事務システムグループ係長）

12月19日（水）企画セッション

タイトル：安否確認システムの共同開発・共同運用における現状と課題

オーガナイザーである梶田将司教授(京都大学)からクラウド部会で共同開発を検討中の安否確認システムについての概要説明を、富士通（株）から安否確認システム導入の必要性や導入事例等の説明を受けた。

綿貫 賢太（事務システムグループ係員）

12月17日（月）に開催された次の一般講演に参加した。

- ・美術と情報の連携による新しい学習支援環境の確立（都留文科大学）
- ・大学教育における Web 株式投資コンテストの活用（名古屋学院大学）
- ・大阪大学の事例：教育のグローバル化に対応したFD支援事業でのICT応用（大阪大学）
- ・ワイヤレスプレゼンツールをベースとした近未来型学習空間の構築に向けて（関西国際大学）
- ・AndroidタブレットとPaSoRiリーダーを用いたFCF対応ICカードリーダーの開発（熊本大学）
- ・モバイルデバイスに対応したライブカメラシステムの構築（鹿屋体育大学）
- ・オープンキャンパスにおけるモバイル端末向け音声対話システムの活用（名古屋工業大学）

名古屋工業大学からは、双方向音声案内デジタルサイネージについての開発から活用までの発表があった。双方向音声案内機能に3Dキャラクターを連動させたシステム(MMDAgent使用)を、正門前に設置し、学内の案内に利用しており、将来的には道案内への活用を目指したいという内容だった。セッション終了後は企業・大学等の展示ブースで情報収集を行った。

藪本 義人（センターシステム係長）

12月18日（火）企画セッション

タイトル：認証連携の「いろは」とケーススタディ

山形大学による東日本大震災時の対応事例として、当該大学が提供する学認用SPに機能追加を行った安否確認システムについての事例紹介他があり、その後参加者による意見交換が行われた。

田坂 和博（センターシステム係員）

1. 教育支援(1)

- ・大学教育におけるWeb株式投資コンテストの活用

2. 情報教育(1)

- ・情報処理科目におけるオンラインの雑誌記事の活用

3. 情報基盤とその運用(4)

- ・パブリッククラウドを利用した技術職員向けサーバ構築講習会の実践報告
(全体を通じての感想)

前回の2011年次大会に引き続き、多種多様な事例報告が行われた。中でも、情報教育に関する事例では試行錯誤を重ねている発表が多く、限られた時間、予算の中で実施しているのが伝わってきた。情報基盤に関する発表では、流行の技術を利用し、いかに自学の枠組みに収めるかの試行錯誤についても報告され、同様な取組みを始める場合の有用な情報となった。

池田 まさ子 (センターシステム係事務補佐員)

1. 情報基盤とその運用 (1)

- ・福岡大学キャンパスネットワークにおける利用者認証と検疫システムの導入 (福岡大学)

2. 情報基盤とその運用 (2)

- ・メールサービスの継続利用確認システムの運用 (東北大学)

(まとめ)

1. IPS の配置で、一定のセキュリティレベルを確保しようとする、通信を許可されない端末が一定数存在することが課題であるが、検疫システムを利用し、改善方法を明示することにより脆弱性が解消され、通信を許可することが可能となる。

「課題」

- ・新 OS がリリースされた場合、接続可能になるまで約 3 か月必要。
- ・対応できない OS や環境に関しては、特別に許可するなどの措置が必要。

2. 教職員や、院生が退職・卒業後も継続的にメールサービスを活用することにより、大学を中心としたコミュニティの活性化が期待できる。

「課題」

- ・管理に膨大な労力が必要。
- ・不正利用時は「損害賠償を支払う事」に同意するという条件を定めているが、xxx.ac.jp ドメインを他国で使用される可能性については、検討項目として残る。

○展示会

神戸大学情報基盤センターの展示ブースを設置、「神戸からの風」の上映、神戸大学主催のイベントの広報活動を行った。

- ・2012/12/20 (木) 開催 神戸大学情報基盤センターシンポジウム

- ・2013/2/9(土)開催 神戸大学のミリョク

企業・他大学の展示ブースを回って、ネットワーク、Thin Client、SNS 関係、教育支援システム等の情報収集を行った。